

鳥取縣公報

昭和十六年七月四日
第千二百四十七號

金 曜 日

本書ノ大キサハ國定規格A5判

告 示

◇鳥取縣告示第五百四十三號

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ食用乾魚介類ヲ陸軍官衙ニ供出スル場合ノ販賣價格左ノ通指定ス

昭和十六年七月四日

鳥取縣知事

八

田

三

郎

種 別

摘

要

正味一〇〇疋當價格

素乾品けんさきするめ

水鱈、ふとう鱈、劍先鱈及之等ノ磨ヲ含ム

四五四、〇〇

同 其ノ他ノするめ

一六〇、〇〇

同 ごまめ (田作)

一六四、〇〇

塩乾品丸乾いわし、目刺いわし

ほほ刺、連刺等ヲ含ム

七九、〇〇

同 丸 乾 あじ

一〇六、〇〇

同 開 乾 あじ

八九、〇〇

同 丸 乾 さんま

一〇六、〇〇

同 さんま 開 乾

八九、〇〇

同さば開乾
煮乾品煮乾まいわし

一〇〇、〇〇〇
七二、〇〇〇

イ 本表ニ掲グル價格ハ軍官衙ノ指定スル產地貨車乘渡價格トス
ロ 本表ニ掲グル價格ハ軍規格ニ依ル特別梱包ヲ爲シタルモノノ價格トシ梱包費ヲ含ムモノトス但シブリキ、釘、及ハンダノ官給ナキ場合ハ實費ノ範圍内ニ於テ加算スルコトヲ得

◇鳥取縣告示第五百四十四號

度量衡法施行令第十四條ニ依リ鳥取市内度量衡器第一種取締左ノ通執行ス

但シ日別検査區域及器物提出場所ハ鳥取市長ノ告示ニ依ル

昭和十六年七月四日

鳥取縣知事

八 田 三 郎

検査執行期日

器物提出時限

執行區域

自昭和十六年七月三十一日
至昭和十六年七月三十一日

午前 三時
午後 三時

東町、西町、湯所町、丸山町、栗谷町、江崎町、馬場町、上町、中町、御弓町、大榎町、庵丁人町、掛出町、大工町頭、寺町、元大工町、上魚町、片原一、二、三丁目、豆腐町、鹿野町、下魚町、下横町、下臺町、玄好町、材木町、鍛冶町、若櫻町、本町一、二、三、四丁目、三軒屋、桶屋町、職人町、二階町一、二、三、四丁目、茶町、新町、元魚町一、二、三丁目、魚町尻、川端一、二、三、四丁目、四丁目尻、藪片原町、濱坂、圓護寺、覺寺

◇鳥取縣告示第五百四十五號

左記ノモノニ對シ羊豚家兎食鶏商免許鑑札昭和十六年六月二十六日下附セリ

昭和十六年七月四日

鳥取縣知事

八 田 三 郎

鑑札番號

取扱家畜

住所

許

氏名

第八二號

食 鶏

鳥取市立川町二丁目

森 協

ふ 高

第八三號

同

同 片原町二丁目

大 畑

信 高

第八四號

同

同 南本寺町

牧 野

敬 太

第八五號

同

同 上魚町

河 武

嘉 七

第八六號

同

同 片原町三丁目

入 田

信 義

第八七號

同

同 二階町二丁目

入 田

善 作

第八八號

同

同 東品治町

西 尾

萬 吉

第八九號

同

同 氣高郡鹿野町鹿野

松 井

重 平

第九〇號

同

同 東伯郡倉吉町明治町

正 司

吉 助

第九一號

同

同 倉吉町越中町

卜 部

三 郎

第九二號

同

同 倉吉町瀬崎町

谷 口

敏 夫

第九三號

同

同 倉吉町河原町

原 田

貞 藏

第九四號

同

同 倉吉町堺町

上 村

文 市

第九五號

同

同 倉吉町東町

豐 田

源 吉

第九六號

同

同 三朝村三朝

山 口

末 吉

00773

- 第九七號 同 橋津村 橋津 東 谷 新 太 郎
- 第九八號 同 西伯郡 上道村 遠 藤 虎 松
- 第九九號 同 境町 相生町 磯 田 千 代
- 第一〇〇號 同 境町 馬場町 佐 木 哲 造
- 第一〇一號 同 境町 相生町 幸 山 利 國
- 第一〇二號 同 鳥取市 川端三丁目 越 野 丈 三 郎
- 第一〇三號 同 東伯郡 日下村上井 藤 本 源 一

◇鳥取縣告示第五百四十六號

國民體力法第九條ニ基キ國民體力管理醫ヲ解任並囑託シタル者左ノ如シ
昭和十六年七月四日

醫師	倉 重	鳥取縣知事	八 田 三 郎
醫師	北 山 三 郎		

◇鳥取縣告示第五百四十七號

產婆名簿ノ登錄並ニ取消者左ノ如シ
昭和十六年七月四日

本籍共	鳥取縣知事	八 田 三 郎
住所	鳥取縣氣高郡小鷲河村大字河内四九九番地	
	昭和十六年六月二十八日	
	第八四二號 登錄	前 田 三 郎
住所	鳥取縣東伯郡小鹿村大字高橋二四九番地	
	昭和十六年六月二十二日付大阪府岸和田市岸城町一七五二番地ニ	
	轉住ニ付產婆名簿登錄取消方出願ニ對シ同年同月二十七日取消	
	馬 野 登 美 子	

◇鳥取縣告示第五百四十八號

00774

氣高郡正條村大字濱村下田富藏ハ昭和十六年六月十九日牛馬商免許鑑札紛失届出ニ付昭和十六年七月一日付再下附セリ仍テ昭和九年七月一日付牛馬商免許鑑札第一一九號ハ無効トス
昭和十六年七月四日

◇鳥取縣告示第五百四十九號

鳥取縣財務出張所管内ニ於テ縣稅檢査章ヲ左ノ通返納竝交付セリ
昭和十六年七月四日

區分	年 月 日	番號	所屬廳名	職名	氏 名
返納	昭和十六年六月十二日	八一	氣高郡小鷲河村役場	元書記	岡 田 田 豐
交付	昭和十六年六月二十三日	八一	同	書記	前 田 田 黨

◇鳥取縣告示第五百五十號

賃金統制令第二十一條ノ規定ニ依リ協定賃金ノ件昭和十六年七月四日左ノ通認可セリ
昭和十六年七月四日

旅 客

一 申請者ノ住所氏名

鳥取縣知事 八 田 三 郎

鳥取市東品治町六拾壹番地壹

日ノ丸自動車株式會社

取締役副社長

田 中 道 夫

鳥取市東品治町百九番地

鳥取自動車運輸有限會社

取締役社長

津 村 信 行

米子市富士見町二丁目百八拾番地	米子交通株式會社	專務取締役	遠藤光德
米子市明治町拾貳番地	米子自動車株式會社	取締役社長	中津尾勇夫
米子市道笑町三丁目百六拾九番地	伯陽電鐵株式會社	代表取締役	松田はる
東伯郡倉吉町大字明治町五拾貳番地	倉吉交通株式會社	取締役社長	金田秀平
氣高郡正條村大字濱村五拾參番地	氣多交通株式會社	取締役社長	田中道夫
東伯郡八橋町大字八橋四百四拾七番地	三和自動車交通有限會社		

四 賃 金

1 雇入レノ際ニ於ケル所定就業時間拾時間ニ對スル定額日給ハ左ノ通トス

二 協定賃金適用區域 鳥取縣一圓

三 適用事業 旅客自動車運輸事業 旅客自動車運送事業

取締役社長 榎田幸太

職 種 別	別 女 男		一 級		二 級		三 級		四 級		五 級	
	最高初給額	最低額	最高初給額	最低額	最高初給額	最低額	最高初給額	最低額	最高初給額	最低額	最高初給額	最低額
運 轉 者	二、一〇	一、四〇	一、九〇	一、四〇	一、七〇	一、三五	一、六〇	一、三〇	一、五〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
助 手	一、一〇	、八二	、九〇	、六八	、七〇	、五四	、六〇	、四七	、五〇	、四〇	、四〇	、四〇
車 掌	、九五	、六五	、九〇	、五〇	、八三	、四七	、七六	、四四	、六七	、四〇	、四〇	、四〇
其ノ他ノ勞務者	一、七〇	、七〇	一、二五	、四〇								
	一、五〇	、五〇	、九〇	、四〇								

職 種 別	等 級	標 準	備 考
運 轉 者	一級	運轉免許證取得後五年以上経験ヲ有スルモノ	(1) 女運轉者ハ男運轉者ノ最高初給額及最低額ノ三割減額ノ範圍内ニテ雇入レルモノトス (2) 女助手ハ男助手ノ最高初給額及最低額ノ二割減額ノ範圍内ニテ雇入レルモノトス但シ五級ノ者ノ最低額ハ四拾錢トス (3) 其ノ他ノ勞務者ニハ自動車修繕工ヲ含マザルモノトス (4) 車掌助手及其ノ他ノ勞務者ニシテ経験ヲ有スルモノハ右最高初給額ノ二割迄増額スルコトヲ得 (5) 退職者同一資本系統ト看做サル、雇傭主ヘ雇傭セラルトキ(縣外ヲ含ム)及特別ノ事由ニヨリ前ノ雇傭主ヘ雇傭セラ ルルニ至リタルトキハ退職當時ノ日給額ヲ以テ雇傭スルコトヲ得 但シ右ノ復職期間ハ二ヶ月以内トス (6) 等級標準
	二級	運轉免許證取得後四年以上経験ヲ有スルモノ	
	三級	運轉免許證取得後三年以上経験ヲ有スルモノ	
	四級	運轉免許證取得後二年以上経験ヲ有スルモノ	
	五級	運轉免許證取得後二年未滿経験ヲ有スルモノ	

其ノ他ノ勞務者	掌 車					手 助						
	二級	一級	五級	四級	三級	二級	一級	五級	四級	三級	二級	一級
	滿二十歲未滿ノモノ	滿二十歲以上ノモノ	滿十四歲未滿ノモノ	滿十四歲以上ノモノ	滿十六歲以上ノモノ	滿十八歲以上ノモノ	滿二十歲以上ノモノ	滿十四歲未滿ノモノ	滿十四歲以上ノモノ	滿十六歲以上ノモノ	滿十八歲以上ノモノ	滿二十歲以上ノモノ

00779

種別	額又ハ率	給與條件
3 手当	勞務者ニ對シ左ノ手当ヲ支給ス	
2 月給ニテ雇人レル場合ノ基本給ハ各職種別等級該當日給ニ三拾ヲ乘ジテ得タル額ノ範圍内トス		
家族手当	毎月拾圓以内	實收月額百五十圓以内ノ勞務者ニシテ扶養家族タル妻及本人ト同一戸籍内ニアル六十歳以上ノ父母及拾八歳未満ノ子供一人ニ對シ二圓以内一人ヲ増ス毎ニ二圓以内ヲ加フ
被服手当	運轉者一年ニ付 四圓 助手一ヶ月ニ付 一圓	運轉者ハ入社後一ケ年目以後毎年四月支給ス 助手ハ一ヶ月十五日以上ノ勤務者ニ支給ス
公休出勤手当	其ノ者ノ一日ノ日給額	其ノ者ノ公休日ニ就業シタルトキニ基本給以外ニ支給ス
應召手当	基本給ノ月額以内	戰時又ハ事變ノ際召集ヲ受ケ應召シタル者ニ付毎月支給ス
公休日手当	其ノ者ノ一日ノ日給額	其ノ者ノ公休日ヲ休ミタルトキニ支給ス
殘業手当	一時間ニ付日給額ノ六分ノ一以内	就業時間ヲ超エテ就業シタル場合其ノ超過時間ニ應ジ支給ス
4 實物給與	實物給與ヲナサムトスルトキハ各事業主ニ於テ豫メ知事ノ許可ヲ受クルモノトス	

00780

5 昇給	1 昇給 期 年二回	
	2 昇給ニ要スル期間 二ヶ月	
	3 昇給額	昇給セシムベキ基本給ニ付一回ノ昇給額ハ拾五錢以内トス 但シ年一回昇給セシムル場合ハ右金額ノ十割増ノ額ノ範圍内トス
6	本協定以外ノ賃金ヲ支給セムトスル場合ハ各事業主ニ於テ豫メ知事ノ許可ヲ受ケルモノトス	
<p>◆鳥取縣告示第五百五十一號</p> <p>賃金統制令第二十一條ノ規定ニ依リ協定賃金ノ件昭和十六年七月四日左ノ通認可セリ</p> <p>昭和十六年七月四日</p>		
貨物	鳥取縣知事	八 田 三 郎
一申請者	鳥取市東品治町一〇九ノ二	
	鳥取自動車運輸有限會社	
	社長 津 村 信 行	
	米子市加茂町二丁目三八	
	米子貨物自動車有限會社	
	社長 大 森 泰 次 郎	

00781

東伯郡倉吉町大正町一〇七五
倉吉貨物自動車運送有限會社

社長 西尾 潔

日野郡日野上村生山一四八ノ一

日野有限自動車會社
社長 久代 直太郎

八頭郡智頭町智頭一、一八一ノ一〇

智頭自動車運輸株式會社
社長 松尾 連市

岩美郡浦富町大字浦富一五二三

東因貨物自動車運送有限會社
社長 中村 茂樹

西伯郡境町大正町一三八

境自動車有限會社
社長 渡邊 英吉

八頭郡若櫻町大字若櫻三五八ノ四

若櫻統制貨物自動車有限會社

00782

氣高郡青谷町大字青谷二八五六ノ二

氣高貨物自動車運送有限會社
社長 田中 寛造

西伯郡淀江町大字淀江八八六

西伯貨物自動車有限會社
社長 中津尾 勇夫

東伯郡八橋町大字八橋一三八五

三和合同運輸有限會社
社長 榎田 幸太

日野郡江尾村大字江尾一八〇二

日野郡口部自動車有限會社
社長 秋鹿 惠重

八頭郡國中村大字米岡五九〇ノ一

河原貨物自動車運送有限會社
社長 山本 政雄

二 協定資金適用地域 鳥取縣一圓

三 事業ノ種類 貨物運送事業
四 賃 金

1 定額賃金制ニ於ケル定額給

(一) 一日ノ所定就業時間ハ十時間トス

(二) 所定就業時間ニ對スル定額給

雇入ノ際ニ於ケル勞務者ノ定額日給ハ左ノ通トス

職 種 別	種 業 事 別	男 女 別	等 級 標 準			
			一 級	二 級	三 級	四 級
運轉者	物貨	男	最高初給額 二、四〇	最低額 一、八〇	最高初給額 二、二〇	最低額 一、五〇
助手	物貨	男	一、七〇	一、五〇	一、五〇	一、二〇
仲仕	物貨	男	二、二〇	一、八〇	二、〇〇	一、五〇
其ノ他ノ勞務者	物貨	男	一、五〇	一、五五		
		女	一、三〇	一、五〇		

職 種 別	等 級	標 準	
		一 級	二 級
運轉者	一 級	免許後五年以上経験ヲ有スルモノ	免許後三年以上経験ヲ有スルモノ
	二 級	免許後一年以上経験ヲ有スルモノ	免許後一年未滿經驗ヲ有スルモノ
助手	一 級	滿二十歲以上ノ男子	滿十八歲以上ノ男子
	二 級	滿十八歲以上ノ男子	滿十六歲以上ノ男子
仲仕	一 級	滿二十五歲以上ノ男子	滿十八歲以上ノ男子
其ノ他ノ勞務者	二 級	國民學校初等科卒業以上ノモノ	

(口) 同一ノ雇傭主ニ於テ仲仕、助手等ヨリ運轉免許ヲ取得シ即時運轉者ニ轉職セシムル場合ハ其ノ定額日給ハ轉職前ノ支給額

- ヲ初給額トシテ支給スルコトヲ得
- (ハ) 月給トシテ雇人ルル場合ノ初給額ハ各職種別等級標準日額ニ三十ヲ乗ジテ得タル額ノ範圍内トス
- (ニ) 其ノ他ノ勞務者ニハ自動車修繕工ヲ含マザルモノトス

2 手當

種別	額又ハ率	給與條件
時間外勤務手當	一時間ニ付日額ノ一割以内	時間外就業時間一時間ニ付

3 昇給規定

- (一) 昇給期 年參回
- (二) 昇給ニ要スル期間

定給月額六十圓以上ノ者一年以上

定給月額六十圓未滿ノ者六ヶ月以上

定給月額四十圓未滿ノ者四ヶ月以上

(三) 昇給額及條件

	甲	乙	丙
額	甲	乙	丙
昇給額	圓一五	圓一〇	圓〇五

昇給期間中業務ニ精勵シ成績優良ニシテ他ノ模範トナルベキモノ

昇給期間中精勤ニシテ缺勤月平均四日以下ノ者タルコト

昇給期間中精勤ニ勤務シタルモノ

4 本協定以外ノ賃金ヲ支給セントスル場合ハ豫メ各事業主ヨリ申請シテ知事ノ認可ヲ受クルモノトス

◇鳥取縣告示第五百五十二號

木材統制法施行規則第八條及第十條ノ規定ニ依ル許可申請書並ニ第四十條ノ規定ニ依ル届出書様式左ノ通定ム

昭和十六年七月四日

鳥取縣知事 八 田 三 郎

- 第一 木材統制法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第八條及第十條ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書ハ木材業者ニ在リテハ第一號製材業者ニ在リテハ第二號ノ様式ニ依ルモノトス
- 第二 規則第四十條ノ規定ニ依リ提出スベキ届出書ハ木材業者ニ在リテハ第三號製材業者ニ在リテハ第四號ノ様式ニ依ルモノトス

様式 第一號

木材業許可申請書

木材統制法施行規則第八條ノ規定ニ依リ御許可相成度關係書類添付此段及申請候也

年 月 日

鳥取縣知事

宛

申請者 住所 氏名

添付書類

- 一 住所 (又ハ主タル事務所ノ所在地)
- 二 營業所ノ位置
- 三 業務ノ態様 (別紙ノ通)
- 四 木材ノ卸小賣別年取扱豫定數量 (別紙ノ通)
- 五 用途別年取扱豫定數量 (別紙ノ通)
- 六 材種別年取扱豫定數量 (別紙ノ通)
- 七 定款、登記簿謄本、財産目錄及貸借對照表
- 八 共同事業ニ關スル事項

記載注意

- 一 法人ニ在リテハ「一、住所」ノ欄ニ取締役ノ住所氏名ヲ附記ノコト以下同ジ
- 二 「營業所ノ位置」欄ニハ主タル營業所ノ位置ヲ他ニ營業所アルトキハ其ノ營業所ノ位置及營業所毎ニ列記ノコト營業所名アルトキハ其ノ營業所名ヲ營業所ノ位置ノ箇所ニ附記ノコト以下同ジ
- 三 「業務ノ態様」欄ニハ卸賣業、小賣業、代理業、媒介業等其ノ業體ヲ記入ノコト以下同ジ
- 四 枕木、電柱、坑木、パルプ用材及車輛用材、船舶用材、土木用材又ハけやき、かし、やちだも、しほぢ、くす、ノ特種用材ヲ主トシテ取扱フ者ハ其ノ取扱品目ヲ營業所ノ位置欄ニ附記ノコト以下同ジ
- 五 従業員アルトキハ營業所毎ニ男女別員數ヲ當該營業所ノ位置欄ニ記入ノコト

00787

00788

一 卸小賣別年取扱豫定數量

區別	期間	自 至		備考
		月	月	
卸賣				
小賣				
計				

- 六 添付書類「七」ハ法人ナルトキニ限リ添附ノコト以下同ジ
- 七 「共同事業ニ關スル事項」ハ二人以上共同シテ許可ヲ受ケントスル場合ニ事業ニ關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタル書類ヲ添付スルモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ内一名ヲ代表者ト定メ其ノ氏名(又ハ名稱)ヲ記載ノコト

記載注意

- 一 材積ハ平石トシ石未滿ハ四拾五人ノコト以下同ジ
- 二 價額ハ販賣價額トシ圓未滿四拾五人ノコト以下同ジ
- 三 用途別年取扱豫定數量

00789

計	區別	期間		備考
		自	至	
		材積	價額	
		石	圓	

記載注意
區別欄ニハ公用、電柱、バルブ用、坑木、枕木、杭木、枕木、枕木、車輛用、船舶用、建築用、土木用等ニ別チ記入ノコト以下同ジ
三 材種別年取扱豫定數量

00790

記載注意
區別欄ニ於ケル材種ハ素材、一般製材、ベニヤ單板、合板、仕組板、樽丸等ニ別チ記入ノコト
様式 第二號
製材業許可申請書

木材統制法施行規則第十條ノ規定ニ依リ御許可相成度關係書類添付此段及申請候也

年 月 日

鳥取縣知事 宛
添付書類
一 住所(又ハ主タル事務所ノ所在地)
二 工場ノ位置
三 兼營事業 (別紙ノ通)
四 事業計畫書 (別紙ノ通)
五 設備要領書 (別紙ノ通)
六 定款、登記簿謄本、財産目錄及貸借對照表
七 共同事業ニ關スル事項

記載注意
一 法人ニ在リテハ「住所」欄ニ取締役ノ住所氏名ヲ附記ノコト

申請人 住所 氏 名

00791

期 間	區 別	材 種	材 積	價 額	備 考	兼營業				
						工場ノ位置	工場名	種 類	一ヶ年製造豫定額	一ヶ年製造豫定數量
二 事業計畫書 (一) 材種別製材豫定量						工場ノ位置	工場名	種 類	一ヶ年製造豫定額	一ヶ年製造豫定數量
								下駄製造	圓	
				パルプ製造	圓					
				家具製造	圓					
				樽容器製造	圓					
				其ノ他	圓					
		束	噸	箇	箇					

二 「工場ノ位置」欄ニハ主タル工場ノ位置ヲ他ニ工場アルトキハ其ノ工場毎ニ位置ヲ列記ノコト
工場名アルトキハ工場名ヲ當該工場ノ位置ノ箇所ニ附記ノコト
三 「兼營業」ハ當該工場ニ於テ製材以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テノミ記入ノコト
四 自己ノ所有工場ナルトキハ其ノ旨ヲ、借受工場ナルトキハ貸付者ノ氏名(又ハ名稱)及住所又ハ事務所ノ所在地並借
受期間ヲ工場ノ位置欄ニ附記ノコト以下同ジ
五 添付書類「六」ハ法人ナルトキニ限り記入添付ノコト以下同ジ
六 共同事業ニ關スル事項ハ様式第一號ノ記載注意「七」ニ準ジ記載ノコト

00792

自 月		至 月		記 載 注 意				
計	一 般 製 材	仕 組 板	樽 丸	ベ ニ ヤ 單 板	合 板	其 ノ 他	石	圓

一 材積ハ製材、製品ノ石數ヲ記載ノコト 石未滿ハ四捨五入ノコト以下同ジ
二 價額ハ販賣價額トス圓未滿四捨五入ノコト
三 材種ニ於テ「其ノ他」ニ該當ノモノアルトキハ其ノ内容ヲ備考欄ニ概記ノコト
四 一般製材ノ内枕木、車輛用材、船舶用材等重要用途材ノ製材、製品ニ付テハ其ノ用途別數量ヲ備考欄ニ記入ノコト
五 期間ハ向フ一ヶ年トス

00793

(二) 原材料ノ入手區分別使用豫定數量

期 間	區 分						備 考
	自 月	至 月	入 手 區 分	材 積	價 價	備 考	
			自己所有森林ノ伐採	石			
			立木ノ買入伐採				
			素材ノ買入				
			請負又ハ受託				
			其 ノ 他				
			計				

記載注意

- 一 材積ハ素材ノ石數ヲ記入ノコト石未滿ハ四捨五入ノコト
- 二 價額ハ買入又ハ見積價額ヲ記入ノコト圓未滿ハ四捨五入ノコト
- 三 入手區分ニ於テ「其ノ他」ニ該當ノモノアルトキハ其ノ内容ヲ備考欄ニ概記ノコト
- 四 期間ハ向フ一ケ年トス

00794

(三) 従業員ノ職種別員數及賃金豫定

職 種	員 數			賃 金			備 考
	男 人	女 人	計 人	最 高 圓	最 低 圓	平 均 圓	
事 務 員							
職 工							
撰 別 結 束							
其 ノ 他							
計							

記載注意

- 一 職種ニ於テ「其ノ他」ニ該當スルモノニ付テハ其ノ内容ヲ備考欄ニ概記ノコト
- 二 賃金ハ一ケ月當リ實收入ヲ記載シ圓未滿ハ四捨五入ノコト
- (四) 起業費ノ收支概算
- (五) 事業ノ收支概算

區別	期間	至自	月	一ヶ	年間	圓	備考
製品販賣益金							
製材事業益金							
雑収入							
支							
營業費							
事業費							
諸税、公課							
償却費							
雑支出							
差引利益							

記載注意

- 一 自家製材ノ場合ニ在リテモ製品販賣益金(商業利益)ト製材事業益金(工業利益)トヲ區分シテ記載ノコト
圓未満ハ四捨五入ノコト以下同シ
- 二 營業費ハ事務員給料、旅費、事務費、其ノ他營業ニ關スル經費ヲ一括掲上ノコト
- 三 事業費ハ職工其ノ他ノ勞銀、動力費、材料費及其ノ他ニ關スル經費ヲ一括掲上ノコト
- 四 利益金ハ處分狀況ヲ備考欄ニ概記ノコト
- (六) 製材事業開始豫定年月日
年 月 日
- (七) 附帶事業ノ概要
- 三 設備要領書
- (一) 建物ノ種類及面積並ニ構造ノ概要

種類	棟數	面積	平方坪	構造ノ概要	備考

00796-1

種 類	大 サ	員 數	所要馬力數	備 考	記載注意	
					製造機械ノ種類、大サ、員數及所要馬力數	
計						

記載注意

- 一 面積ハ六尺平方坪トス坪未満ハ四捨五人ノコト
- 二 構造ノ概要ハ木造平屋建、杉皮葺、鐵筋混凝土二階建、瓦葺等其ノ構造ノ種別ヲ記入ノコト
- 三 仕譯結束室ハ別紙(四)ノ倉庫ニ包含セシムルコト

(二) 製造機械ノ種類、大サ、員數及所要馬力數

00796-2

種 類	馬 力		員 數	備 考	計	記載注意	
	公稱馬力	實馬力				製造機械ノ種類、大サ、員數、工場名、工場ノ位置	
計							

記載注意

- 一 種類欄ハ製材機ノ種類ヲ其ノ大サノ異ル毎ニ記載ノコト
- 二 合板、床板等ノ製造業ニ在リテハ機械ノ種類ヲ大サノ異ル毎ニ記載ノコト
- 三 一馬力未満ハ四捨五人ノコト

(三) 原動力ノ種類馬力及員數、工場名、工場ノ位置

記載注意

- 一 種類欄ニハ工場毎ニ電力、水力、石油、ガソリン、薪、木炭、瓦斯等原動力ノ種類ヲ其ノ種類及馬力ノ異ル毎ニ記載ノコト
- 二 種類及大サ同一ノモノニ以上アルトキハ總馬力數ヲ特ニ備考欄ニ記載ノコト

00797

(四) 原材料及製品ノ貯藏設備ノ種類
構造ノ概要並ニ收容能力

種 類	員數又ハ棟數	面 積	收 容 能 力		構 造 ノ 概 要	備 考
			一坪當リ	總收容力		
水中貯木場			坪	石		
陸上貯木場						
倉 庫						
計						

記載注意

一 收容能力ハ最大收容能力ヲ記載ノコト

(五) 乾燥其ノ他ノ附帶設備豫定ノ概要

種 類	目 的	方 法	棟數又ハ室數	面 積	乾 燥 能 力	備 考
室外乾燥場						
室内乾燥場				坪		
計						

00798

記載注意

一 目的ハベニヤ單板乾燥、厚板乾燥、函板、乾燥等ノ別ヲ記載ノコト

二 方法ハ蒸氣乾燥、煙烟乾燥、天然乾燥等ノ別ヲ記載ノコト

三 乾燥能力ハ一ヶ年ノ乾燥能力ヲ記載ノコト

(六) 以上ノ設備要領書ニハ敷地内ノ建物及設備ノ配置圖並ニ敷地附近ノ概況圖ヲ添付ノコト

様式 第三號

木 材 業 届 出 書

木材統制法施行規則第四十條ノ規定ニ依リ左記關係書類添付此段及御届候也

年 月 日

住 所

届 出 人 氏

名 印

鳥取縣知事

宛

添 付 書 類

一 住所(又ハ主タル事務所ノ所在地)

00799

- 二 營業所ノ位置
 - 三 業務ノ態様
 - 四 最近二ヶ年間ニ於ケル事業ノ概況
 - 五 資本金額
 - 六 共同事業ニ關スル事項
- 記載注意
- 一 様式第一號ノ記載注意ニ準ジ記入ノコト
 - 二 「資本金額」ハ會社ナルトキニ限リ公稱及拂込金額ヲ併記ノコト
 - 三 「共同事業ニ關スル事項」ニハ二人以上共同シテ届出ヲ爲サムトスル場合ニ事業ニ關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタル書類ヲ添付スルモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ内一人ヲ代表者ト定メ其ノ氏名(又ハ名稱)ヲ記載ノコト
- 最近二ヶ年間ニ於ケル事業ノ概況
- 一 卸小賣別年取扱量

計	小賣	卸賣	區別		備考
			自昭和十四年五月至同十五年五月	自昭和十五年五月至同十六年五月	
			積價額	積價額	
			石	石	
			圓	圓	

記載注意

00800

- 一 期間ハ必ズシモ自六月至翌年五月トスルコトヲ要セズ自一月至十二月又ハ自四月至翌年三月トスルモ差支ナシ以下同ジ
 - 二 様式第一號「別紙一」ノ記載注意ニ準ジ記載ノコト
- 二 用途別年取扱數量

計	區別	區別		備考
		自昭和十四年五月至同十五年五月	自昭和十五年五月至同十六年五月	
		積價額	積價額	
		石	石	
		圓	圓	

記載注意

- 様式第一號(別紙二)ノ記載注意ニ準ジ記載ノコト
- 三 樹種別年取扱量

計	內地材	針	潤	區別		備考
				自昭和十四年五月至同十五年五月	自昭和十五年五月至同十六年五月	
				積價額	積價額	
				石	石	
				圓	圓	

00801

道材	北海		朝鮮材	台灣材	南洋統治領材	チ リ ク	支那 桐	滿洲材	南洋材	中南米材	北米材
	計	澗針									

00802

用途	指定材					合計	記載注意
	かし	けやき	しほぢ	やちだも	くす		
							用途指定材トシテ掲上シタルモノハ他ト重複セザル様處理ノコト 四 材種別年取扱量 記 載 注 意
							區 期 別 間 自昭和十四年五月至昭和十五年六月 同 積 積 價 價 額 額 圓 圓 備 考

00803

計

記載注意

様式第一號「別紙三」ノ記載注意ニ準ジ記載ノコト

様式 第四號

製材業 届出書

木材統制法施行規則第四十條ノ規定ニ依リ左記關係書類添付此段及御届候也

年 月 日

住所

氏

名

鳥取縣知事

宛

届出人

添付書類

一 住所(又ハ主タル事務所ノ所在地)

二 工場ノ位置

三 兼營事業

四 既往二ケ年間ニ於ケル事業実績書 (別紙ノ通)

五 既往二ケ年ニ於ケル設備要領書 (別紙ノ通)

六 共同事業ニ關スル事項

記載注意
一 様式第二號ノ記載注意ニ準ジ記入ノコト

00803

一 材種別製材量
二 「兼營事業」ハ様式第二號「別紙一」ニ準ジ記入ノコト
三 「共同事業」ニ關スル事項「ハ様式第三號記載注意「三」ニ準ジ記載ノコト
既往二ケ年間ニ於ケル事業実績書

期 間	區 別	材 種	材 積	積 價	額	備 考
自昭和十四年六月 至同十五年五月		一般製材				
		仕組板				
		樽丸				
		ベニヤ單板				
		合板				
		其ノ他				
		計				
自昭和十五年六月 至同十六年五月		一般製材				
		仕組板				

00805

期 間	區 別	入 手 區 分	材 積	價 額	備 考
自 昭和十四年六月 至 同 十五年五月		自己所有森林ノ伐採	石		
		立木ノ買入伐採			
		素材ノ買入			
		請負又ハ受託			
		計			
		樽 丸			
		合 板			
		ベニヤ單板			
		其 ノ 他			
		計			

記載注意
様式第二號(二ノ一)ノ記載注意ニ準ジ記載ノコト
二 原料材ノ入手區分別使用量

00806

期 間	區 別	入 手 區 分	材 積	價 額	備 考
自 昭和十五年六月 至 同 十六年五月		自己所有森林ノ伐採			
		立木ノ買入伐採			
		素材ノ買入			
		請負又ハ受託			
		計			
		其 ノ 他			
		計			

記載注意
様式第二號(別紙二ノ二)ノ記載注意ニ準ジ記載ノコト
三 従業員ノ職種別員數及賃金
様式第二號(別紙二ノ三)ノ記載注意ニ準ジ記載ノコト
四 事業ノ收支概算

00807

收入	製材事業益金	雜收入	支出	營業費	事業費	諸稅、公課	償却費	雜支出	差引利益

00808

五 製材業開始年月日 年 月 日

六 附帶事業ノ概要
記載注意
本表ハ様式第二號「別紙三ノ五」記載注意ニ準ジ記載ノコト

設備要領書

一 建物ノ種類及面積並ニ構造ノ概要
様式第二號「別紙三ノ一」ニ準ジ記載ノコト
記載注意

一 昭和十六年六月一日現在ニ於ケルモノヲ記載ノコト以下同ジ

二 製造機械ノ種類大サ員數及所要馬力數
様式第二號「別紙三ノ二」ニ準ジ記載ノコト

三 原動力ノ種類及馬力並ニ員數
様式第二號「別紙三ノ三」ニ準ジ記載ノコト

四 原料材及製品ノ貯藏設備ノ種類及構造ノ概要並ニ收容能力
様式第二號「別紙三ノ四」ニ準ジ記載ノコト

五 乾燥其ノ他附帶設備ノ概要
様式第二號「別紙三ノ五」ニ準ジ記載ノコト

彙報

00809

コルク製造原料の「アベマキ」を保護せよ

(林務課)

コルク製造原料たるアベマキ産地として、鳥取縣は全國でも有數な地位にある。

コルクは濕氣及び熱の絶縁體として、又防油・防蟻・防震用として、何物より優れた特性を有し、これを製粉壓搾した「生板」としてはパツキング・瓶栓用・コルクタイル・紡織用ローラー・電氣機具用等に用ひられ、粉粒を壓縮高熱した「炭化コルク」は製板して冷蔵庫・各種貯藏室・遮音室・艦船汽車等の特殊室その他熱氣冷氣濕氣の遮断用に、又スチーム・冷風・熱風輸送パイプカバーとして或はコルクタイル用として、今や我が國工業界に無くてならぬ必需品であつて年額五百萬圓近い需要を見、尙年々増加の傾向にあるものであつて、従來内地産アベマキ樹皮の外年二百萬圓のコルク輸入によつてこれを充足してゐた。

しかして従來これが供給は多く地中海沿岸地の諸國のコルクガシから採取したものを輸入してゐたのであつたが、歐洲動亂以來これら諸國よりの輸入は絶對不可能となつた爲、近頃では朝鮮及び内地産のアベマキによつて満たされてゐるのであるが、その朝鮮産アベマキ皮もまた生産統制の關係から昨年度よりは移入皆無の状態となり、従つて今後需要の大部分は内地産アベマキに依る外に途がない状態となつてゐる。

コルクガシのコルク層が七一〇CMあるに對してアベマキのコルク層は二三CMのものではあるけれども、壓搾板として使用するには舶來コルクの代用として充分その用を足し得るものであつて、最近コルク製品の大部分はアベマキ皮で作られ、舶來品といはれるものでも一二割は混入されてゐる實情である。

この重要なアベマキは我が國では中國地方、中仙道北陸の一部朝鮮及び九州の北部等を主として臺灣にもあるが、現在コルク皮として多量に生産されてゐるものは中國地方及び朝鮮であつて、中國地方では廣島岡山縣を筆頭とし、次いで鳥取縣及び島根山口縣となつてゐて、本縣は實にコルク用材アベマキの重要産地たる

00810

地位にあるわけである。

従つてこれまで比較的無難作に取扱はれてゐたアベマキも、今後は是非造林並に補育保存を勵行し、尙薪炭材に利用する際にも特に留意を要するわけであつて、今回六月三十日附鳥取縣第二十八號を以て「あべまき樹皮検査規則」が制定せられ、これに伴ふ各種縣規定の改訂を見たのもこれが爲である。

尙、縣ではこのアベマキ樹皮増産を圖るためこれが増産に關する指導獎勵方針並に集荷統制方針を決定して居るので次に記して置く。

一 指導獎勵方針

- (イ) アベマキ樹ノ新植ヲ獎勵(集團的造林ニハ獎勵金ヲ交付ス)
- (ロ) アベマキノ幼齡樹ニ對シテハ極力保護ニ努メ伐採跡地ノ萌

二 集荷統制方針

- (イ) 森林組合、木炭増産改良組合、産業組合其ノ他ノ生産團體ノ所屬員ガ生産セルアベマキ樹皮ハ其ノ團體ヲ通ジ縣山林會ニ集荷スルモノトス
- (ロ) アベマキ樹皮ノ採取業者、仲買業者ノ組織セル團體ノ取扱ニ係ルアベマキ樹皮ハ總テ縣山林會ニ集荷スルモノトス

芽ニ對シテハ特ニ撫育ヲ圖ラシムルコト

(ハ) 薪炭材ノ伐採ニ當リ成ル可クアベマキ樹ヲ殘存セシムルコト

(ニ) アベマキ樹相當存スルモ剥皮事業盛ナラザル地方ニ於テハ薪炭材改良指導員、木炭検査員等ノ指導ニ依リ地元産業ノ開發ヲ圖ルコト

本年の麥豫想收穫高

前年實收 一二萬二千石の增收か
高より

(統計課)

鳥取縣に於ける本年の麥作付面積及び其の前年との比較は

00811

種別	本年作付面積	前年作付面積	前年作付面積ニ比シ
大 麥	三、八八〇・八 町反	三、四六八・三 町反	四一二・五(一割一分九厘)増
小 麥	四、四五一・八	三、七一一・六	七三七・二(一割九分八厘)増
計	四、五二七・五	三、九九九・二	五二八・三(一割三分二厘)増
	一一、八六〇・一	一一、一八二・一	一、六七八・〇(一割五分)増
種別	本年豫想收穫高	前年實收高	前年實收高ニ比シ
大 麥	六一、〇〇〇 石	五四、三五四 石	六、六四六(一割二分二厘)増
小 麥	六一、〇九〇	五一、三四六	九、七四四(一割九分)増
計	六八、四六〇	六二、三九一	六、〇六九(九分六厘)増
種別	前五ヶ年平均實收高	前五ヶ年平均實收高ニ比シ	
大 麥	四七、四二九 石	一三、五七二(二割八分六厘)増	
小 麥	五三、一九〇	七、九〇〇(一割四分九厘)増	
計	四〇、一七八	二八、二八七(割四厘)増	

となつてゐる。又之を前五ヶ年の平均實收高に比すると
 となつてゐて、小麥の如きは異常な隆進振りを示してゐる。
 蓋し本年の麥作は一部に病害虫の被害を蒙つたものがあつたが、播種以來多期間に於ける氣候温暖であつて降雪少く、而して春季に於ける氣候も概ね適順であつたために稍々良好な生育を遂げて右のやうな増收が豫想せられるに至つたものである。
 尙ほ之を各郡市別に示すと次の通りである。

00812

郡市別	種別	作付面積	豫想收穫高	前年作付面積ニ比シ	前年實收高ニ比シ
鳥取市	大 麥	三四、五 町反	六四〇 石	一、五	四六
	小 麥	一八三、九	一、三四〇	一八、一	一、一四八
	計	六一、九	七六〇	一三、三	三〇
米子市	大 麥	一〇八、〇	二、五九〇	△ 一〇、二	四〇二
	小 麥	一八一、六	二、九〇〇	四、四	四一九
	計	三二一、七	六、四四〇	五二、二	二、一〇八
岩美郡	大 麥	二九〇、七	五、〇一〇	四一、〇	九一七
	小 麥	四七七、六	六、七八〇	九五、一	九七二
	計	一五九、五	二、一一〇	三七、〇	四〇七
入頭郡	大 麥	二五二、四	三、七六〇	二、四	一三七
	小 麥	一、二三〇、五	一七、六二〇	△ 一八〇、五	三、五一七
	計	二〇一、〇	二、九一〇	△ 二三、四	三三三
氣高郡	大 麥	五六九、三	八、四九〇	三四、〇	五八
	小 麥	八二三、八	一〇、九二〇	一〇九、四	九二六
	計	二九四、〇	三、八四〇	三五、五	二八九
東伯郡	大 麥	一、三九〇、一	二〇、四七〇	二四六、三	二、八二一
	小 麥	七三三、〇	九、二三〇	一二八、四	二、二九二
	計	一、五一四、七	二一、二三〇	一八〇、六	五四五
西伯郡	大 麥	八七五、五	一四、五八〇	六二、二	一、二四七
	小 麥	八一四、九	一二、〇二〇	一九八、三	二、七四七
	計	一、八二二、二	二九、三六〇	二一八、七	二、六八一

日野郡	大	三六〇、三	五、四六〇	三五、三	一、二九二
	小	二六、五	二八〇	三、〇	一九
計	大	一五二、五	一、八一〇	一四、四	三三二
	小	四、四五一、八	六二、〇〇〇	四二二、五	六、六四六
	大	四、五二七、五	六八、四六〇	七三七、二	九、七四四
	小			五二八、三	六、〇六九

◎行旅死亡人

- 一本籍住所氏名 年齡不詳
- 二性別 職業 男 變死體
- 三人相 身長 五尺三寸位 頭髮長シ推定年齡三十歲勞働者風態ニ非ズ、
- 四 變死人ノ着衣 夏物白色メリヤスシャツ、冬物毛メリヤス 猿又、夏物メリヤス猿又、冬物コットンズボン下、黒サ ージ平ズボン、茶色毛靴下、黒革短靴、紺紫色冬物手袋
- 五 所持 金品 冬物メリヤスシャツ一、毛糸製ジャケツ二 サージ詰襟上衣一、霜降模様頸卷一、黒紺中折帽一、冬物霜降模様オーバー、湯上リタオル一、ピッケル一、ク ローム側腕巻時計十型一、馬蹄型折財布一、現金十二圓 九十四錢、小型懐中電燈一、成田山御守札一、筆筒用鍵 一、九型磁石一、白色木綿マスク一、五萬分ノ一陸地測

量圖(登別温泉)一

- 六 死亡推定原因 屍體所在箇所ハ幌別村字本町ヲ距ル北方約 三里入畜ノ交通ニ適セザル山中ナルヲ以テ變死者ハ一攫 千金ヲ夢見テ無經驗ナルニ拘ラズ探礦ノ目的ヲ以テ山嶽 地帯ヲ彷徨中飢餓凍餒ニ迫リ歩行ニ堪ヘズ凍死シタルモ ノノ如シ
- 七 假埋 葬地 北海道幌別郡幌別村字來馬共同墓地
- 八 取 扱 者 北海道幌別郡幌別村長

尙屍體ハ變死後約百十日位經過セルモノト推定ス
心當ノ向ハ直接該村長宛照會相成度

◎行旅死亡人

- 一本籍、住所、氏名、年齡 自稱秋田縣北秋田郡扇田町 工 藤榮吉 六十二歲

- 一人相、特徴 身長五尺三寸位、頭部薄禿、身體通常左眼下 黒子アリ、乞食風態
- 一 着衣、遺留品 メリヤスシャツ、コール天ズボン、袴天二 枚、代用ゴム靴、巻ゲートル、所持金ナシ
- 一 取扱ノ經過 昭和十六年一月三十日標茶市街地東方約一杆 五〇ノ地點ニ全身凍傷ニ罹リ行倒レ居タルモノヲ午後四 時通行人ニ發見サレ加療セシモ午後七時二十八分死亡シ タルニ依リ標茶共同墓地ニ假埋葬ニ附セリ
- 一 取 扱 者 北海道川上郡標茶村長 心當ノ向ハ直接該村長宛照會相成度

◎行旅死亡人

- 一 取 扱 者 福井縣坂井郡加戸村長
- 一本 籍 住所、職業、氏名 不 詳
- 一 推定 年齡 四十歲位 男
- 一人 相 身丈五尺一寸、瘦形、顔細長、肩口眼耳普 通、鼻高色白、頭髮丸刈、一見乞食風
- 一 特 徵 一前齒二本缺 下右白齒一本缺
- 一 着 衣 茶色セル地單衣アツシ、黒木綿地單衣アツ シ、黒木綿地綿入短衣何レモ甚ダ數破レルモノヲ纏イ木

綿細紐ヲ締ム、ネル地股引及黒木綿地股引何レモ破レタ ルモノヲ着シ損傷シタル十一文地下足袋ヲ履ク

- 一 所 持 品 現金壹圓拾壹錢也
- 一 持 品 内譯、十錢白銅六枚、五錢白銅貳枚、一錢銅貨貳拾七枚 ニューム物一錢拾四枚
- 一 所 持 品 白米約三合 鋏一 剃刀一 爪切一 ニューム辦當箱三 箇(内一箇ハ菜肉内二箇中ニ白砂糖ヲ入ル)
- 一 所 持 品 ニューム鍋徑五寸大一箇、食器瀧戸引一箇、漆塗赤碗一 箇、魚釣鉛玉四箇、鍔タル釣針七本、釣糸一、巻黒ガス 糸三卷、古風呂敷一枚、同ハンカチ一枚、擔用肩掛一、 古帽子但リボンナシ一、小箱マツチ一

外ニ昭和十三年九月二十二日附富山日報十月八日九日北 陸タイムス
昭和十五年二月十五日附新愛知新聞福井版、七月十八日 附朝日新聞

一 處分ノ顛末 昭和十六年四月二十七日福井縣坂井郡加戸 村地籍第百十九字拾七番ニ於テ病死(腦溢血)ニ付檢屍 ノ上同村加戸第百三十六字二十九番墓地ニ假埋葬ス
心當リノ向ハ直接該村長宛照會相成度

00815

正 誤

區 別 頁 段 及 行 誤 正

昭和十六年六月六日鳥取縣令第二十三號警防團施行細則

同年六月二十四日鳥取縣條例第四號水産製品検査手数料條例

三四 下段六行目
七行目ノ間

第三項第四號

第四項

「附 則」

昭和十六年六月十日鳥取縣告示第四百五十八號家庭用金物(バケツ、釣瓶、水杓及肥料杓)ノ販賣價格中左ノ通正誤ス

誤

正

- | | |
|--|--|
| <p>一 平板製品(一)バケツイノ項中竹製釣手又ハ木製釣手附
ノモノ、價格ハ本表價格ヨリ三〇錢下ゲトス</p> <p>一 平板製品(一)バケツロノ項中補強底輪附ノモノハ四號
乃至六號ニ在リテハ本表價格ノ四〇錢下ゲトシ其ノ
他ノモノニ在リテハ本表價格ノ六〇錢上ゲトス</p> <p>一 平板製品(三)接合水杓ノ註木柄附ノモノハ本表價格ノ
一五錢上ゲトス</p> <p>二 亞鉛メッキ製品(三)押出水杓ノ註木柄附ノモノハ本表
價格ノ一五錢上ゲトス</p> <p>二 亞鉛メッキ製品(四)肥料杓(ハ)木柄ヲ附シタルモノ、價
格ハ二四號及二六號ニ在リテハ前各表ヨリ六五錢二
七號ニ在リテハ同六〇錢上ゲトス</p> | <p>一 平板製品(一)バケツイノ項中竹製釣手又ハ木製釣手附
ノモノ、價格ハ本表價格ヨリ三錢下ゲトス</p> <p>一 平板製品(一)バケツロノ項中補強底輪附ノモノハ四號
乃至六號ニ在リテハ本表價格四錢上ゲトシ其ノ他ノ
モノニ在リテハ本表價格ノ六錢上ゲトス</p> <p>一 平板製品(三)接合水杓ノ註木柄附ノモノハ本表價格ノ
二錢上ゲトス</p> <p>二 亞鉛メッキ製品(三)押出水杓ノ註木柄附ノモノハ本表
價格ノ二錢上ゲトス</p> <p>二 亞鉛メッキ製品(四)肥料杓(ハ)木柄ヲ附シタルモノ、價
格ハ二四號及二六號ニ在リテハ前各表ヨリ七錢二七
號ニ在リテハ同六錢七ゲトス</p> |
|--|--|

◎訂正 前號彙報欄「傷痍 軍人出張相談所設置」記事中△偶數日△奇數日とあるは孰れも「月」の誤植

昭和十六年七月四日印刷
昭和十六年七月四日發行

發行者 鳥取縣鳥取市東町
鳥取縣氣高郡大正村大字古海
印刷所 鳥取刑務支所